

# 経営比較分析表

埼玉県 秩父市

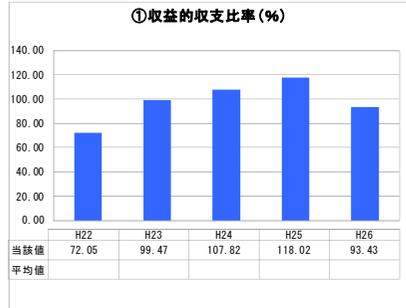
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F3	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	3.30	100.00	3,360

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
66,073	577.83	114.35
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,168	0.63	3,441.27

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

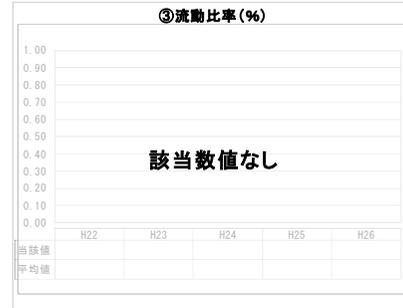
## 1. 経営の健全性・効率性



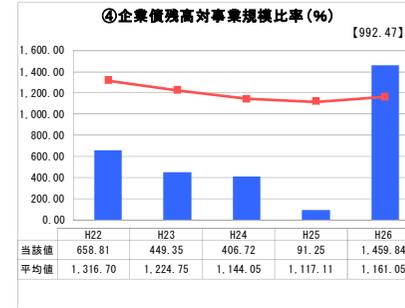
「単年度の収支」



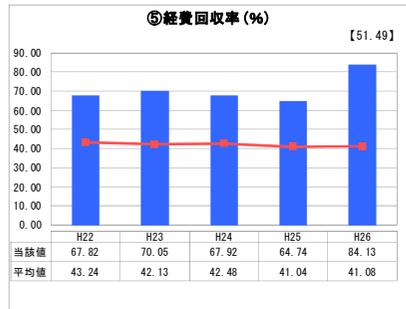
「累積欠損」



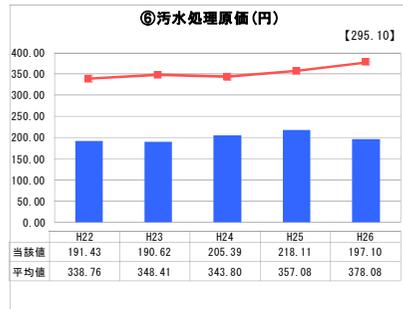
「支払能力」



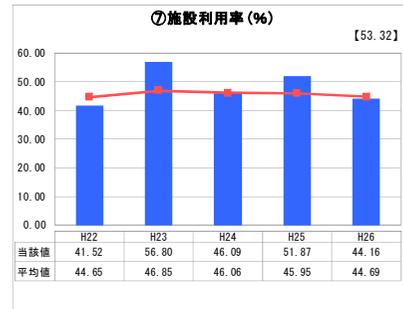
「債務残高」



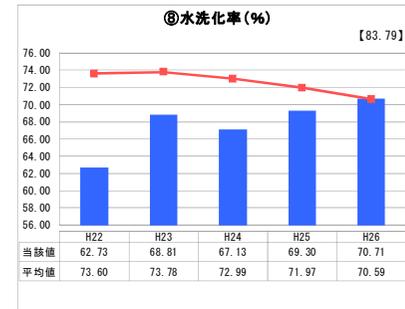
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

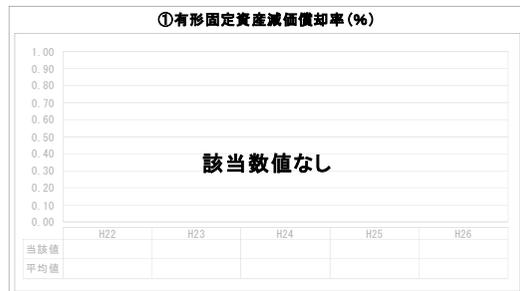


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

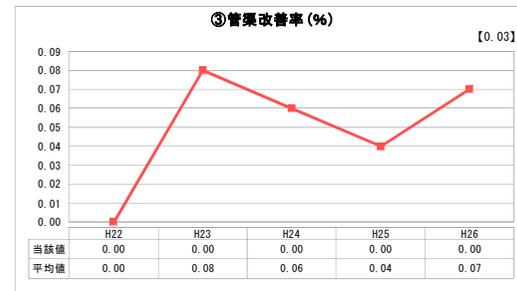
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は70~120%である。企業債残高対事業規模比率は、平成25年度まで減少しているが、平成26年度より起債償還の措置期間が終わり、比率が1400%と高い水準となったが、今後は減少方向に向かうものと思われる。

収支的には健全そうに見えるが、一般会計からの繰入金により、適正な経営が維持できている状況であり、今後施設の更新費用が増大するため、安定した事業費確保のため繰入金、料金等を総合的に検討し、安定した事業費確保を進めなくてはならない。経費回収率は、65~84%と平均より高く、汚水処理原価も200円前後と安価で維持ができています。

これは、処理施設が比較的新しく施設の維持管理費が安価であること、汚泥処理を他機関に依頼して処理する事によるコストダウンによるものと思われる。

施設の利用率は区域内の人口変動による変化が大きいと思われる、水洗化率は順調に推移をし、平均値に近い数値となっている。

効率性については、施設整備が済んでいるため、現地域においては最も効率の良い処理方式であると思われる。

### 2. 老朽化の状況について

農業集落排水施設整備は平成に入ってからであり、供用開始後、最初の施設更新については、電気、機械設備の更新事業を順次進めている状況である。

管渠の改善率については、施設が比較的新しい施設であるため、改善事業に着手していない状況である。

## 全体総括

農業集落排水は、小規模事業であるため、維持管理を含めたトータルコストでは、他の事業と比べ効率が良くない事業であるが、施設が点在しており、下水道事業との統合も困難であるため、現有施設を効率良く維持管理すると共に、繰入金、料金等を総合的に検討し、事業の安定確保を進めて行かなくてはならない。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。